

エピペン®を用いたアナフィラキシー対応について

キャンパスライフ・健康支援センター

- アナフィラキシーとは「生命が脅かされるほど重症のアレルギー反応」です。
- 治療薬「エピペン®」の適正な使用により、症状の著しい改善が期待できます。
- エピペン®使用のタイミングを逃すと、死に至る危険性が高まります。
- 患者がエピペン®を自己注射できない場合、居合わせた人が注射を代行して救命しましょう*。
- エピペン®注射の操作はとても簡単で、誰でも実行可能なものです。
- エピペン®注射を代行したうえで、救急車を呼びましょう。

*救命を目指した処置では、その結果によらず法的な責任を問われることはありません。

「アナフィラキシー」という言葉は、COVID-19 ワクチンの副反応の一つとしてよく知られるようになりました。アナフィラキシーとは、一言で言えば「生命が脅かされるほど重症のアレルギー反応」であり、もちろんワクチン接種に留まらず、その他の薬剤、蜂毒、食物など様々な原因によって起こり得ます。じんま疹など皮膚の症状、鼻水や咳など呼吸器の症状、吐き気や下痢など消化器の症状が多いですが、これらに息苦しさ、ぐったり、意識レベルの低下などが加わると「生命が脅かされている」状態にあると認識する必要があります。

アナフィラキシーは、発症から生命が脅かされ得る状態に至るまでの時間が短い（わずか数分のこともある）ため、迅速な対応が求められます。最も重要な対応は、アドレナリン自己注射薬である「エピペン®」を適正に用いることであり、この対応により症状の著しい改善が期待できます。一方、エピペン®使用のタイミングを逃すと死亡を含めた重大な転帰に至る危険性が高くなります。

エピペンは「自己注射薬」であり、患者（過去にアナフィラキシーの既往がある人）が医師の処方を受けて所持・携行しておき、発症した際に自分自身で注射するものです。しかし、稀ではありますが、症状の進み具合や程度によって、患者が自身で注射できない場合もあり得ます。そのような場合、周囲に居合わせた人が本人の代わりに注射してあげることが、極めて重要な対応となります（下記「参考」を参照）。エピペン®注射を代行したうえで、救急車を呼びましょう。

本学の学生定期健康診断時の調査（大学院生を含む全学生が対象）によれば、医師にエピペン®を処方されている（携帯している）学生は50～60人に及びます。アナフィラキシーの原因のほとんど（90%以上）は食物であり、本人は原因食物を避けるよう気を付けていますが、気づかないまま食べてしまう可能性は排除できません。また、食べただけでは無症状であるにも拘わらず、その後運動をすると症状が誘発される特殊型アナフィラキシーの既往のある人もいます。あるいは、山林が近い伊都地区では課外活動中の蜂刺されなども危惧される場所です。

エピペン®注射の操作はとても簡単で、誰でも実行可能なものです。青色の安全キャップを外し、

橙色の先端部分を太腿のやや外側の皮膚に垂直に「カチッ」と音がするまで押しつけ（下図のように服の上からでも構いません）、5秒ほど保持します。注射後にエピペン®を抜くと、針先は自動でカバー内に納まるので安全です。



- ✓ 上記のような操作方法は、エピペン®本体にも図示されています。
- ✓ 下記サイトには動画を含めた解説が掲載されています。
<https://www.epipen.jp/attention.html?ref=%2Fhowto-epipen%2Fuse.html>
- ✓ キャンパスライフ・健康支援センターの本部相談室（伊都センター）や分室（伊都ウエスト、病院、大橋、筑紫）には、エピペン®のデモ器（練習用トレーナー）を常備していますので、実際の操作を体験したい方はご連絡のうえおいでください。

参考

たとえば授業中に、エピペン®を所持する学生がアナフィラキシーを発症し、本人がエピペン®を靴から取り出したものの、症状のために自己注射までできない状況に陥ったとします。そのような場面に居合わせた教員と学生の関係性は、急病者と通りすがりの人（bystander）の関係性と同じとは言えず、もしエピペン®注射を代行しなかったとすれば、本来果たすべき救護義務の責任を問われる可能性があります。一般に（エピペン®に限らず）、授業中の急病等で何の措置も講じなかった場合は、個人として民事上の責任を問われる可能性があります（児童や生徒を保護すべき義務を負う教員の救護義務について争われた複数の判例があります）。

一方で、エピペン®注射を代行する行為が医師法第17条に違反しない旨の文科省・厚労省の公式見解がありますし、また万が一有害事象が生じた場合でも、刑事・民事上の責任が問われることはありません（刑法第三十七条一項 緊急避難、民法第三章第六百九十八条 緊急事務管理）。